



公益社団法人中央畜産会では、畜産業界における女性のキャリアアップ研修会の実施や、女性活動グループの支援を通じて畜産経営の中核的な役割への女性参画を後押ししている。こうした畜産女性経営者育成強化事業の一環として、オンラインでの全国シンポジウムが2020年11月に開催された。当日は、事前登録をした畜産生産者や獣医師など200人あまりが同時にリモートで視聴、参加した。

シンポジウムの冒頭、主催者を代表して同会の井出道雄副会長から「女性・男性の区別なく活気ある畜産経営を目指して、新たな発想でそれぞれの長所を活かしたチャレンジをすることが大切です」と挨拶があった。続いて、農林水産省畜産企画課の松井裕佑課長補佐から来賓の挨拶がなされた。

パネルディスカッションに先駆けて、東京大学大学院農学生命科学研究科准教授松田二子氏からは「女性活躍と畜産―多様性がもたらす活性化と経営向上―」と題した講演があった。松田氏は、まず、男女格差を示すジェンダーギャップ指数が世界153カ国の中で日本は121位と低水準を更新している事に警鐘を鳴らした。そして、女性の農業経営への関与が収益に与える影響について実態を交えながら、更なる参画のために必要な事と女性が参画するメリットが伝えられた。

**いまだ根深い日本の男女格差
女性の畜産経営参画を切り拓くには？**

また、石垣島で2児を育てながら家族で肉用牛繁殖農家を営む眞榮城美保子さんは、「地域で女性同士のネットワーク活動をするにも、まだまだ家から出られない女性も多いです。研修会などの大義名分があると出やすいが、一人での参加は心理的なハードルが高いので、仲間からの誘いや声掛けまでを仕組みにすると良いと思います」と提案が加えられた。

男女ともに生き方が多様になる中、持続的に社会が続くよう求められるサポートは何か。今後とも考えていく必要がある事が共有された。

パネルディスカッションでは、「多様性の中でのこれからの畜産女性の活躍」をテーマに話合われた。コディネーターを務めた松田さんをはじめ、養豚農家、養牛農家、削蹄師、獣医師の4人のパネラーが参加。現在の仕事への携わり方や、今の仕事に就いた経緯などが紹介され、それぞれの背景を交えながら、女性が主体的に経営にかかわる意義や、抱える課題が話し合われた。

**今、自分たちにできる事
女性が一歩踏み出すために**



NEWS
11月17日

令和2年度畜産女性経営者育成強化全国シンポジウム

畜産業に広がる多様性 更なる女性参画の場を

畜産業に携わる女性の参画の場を広げようと、「令和2年度畜産女性経営者育成強化全国シンポジウム」(主催：公益社団法人中央畜産会)が11月17日に開催された。新型コロナウイルス感染拡大防止を受け、当日は東京都内を拠点としオンラインで同時配信された。



Room B

令和2年度
畜産女性経営者育成強化
全国シンポジウム

